English Abstract for JP 49-10109

Iron oxide containing waste from blast furnaces and converter furnaces are formed into pellets with carbonaceous reducing powder and reduced into iron pellets in a rotary-type high temperature reduction furnace. For reduction, the iron-pellets are maintained at a temperature ranging from 980 to 1200°C for 30 to 60 minutes in the rotary furnace.



特 許 願告

昭和47年 5月 27日 25

特許.庁長官

殿

1. 発明の名称 ロータリキルンによるダスト処理方法

2. 免 叨 者

作"所 広島市製音新町!丁目8番21号 近"名 学 盟 省 夫

3. 特許出願人

住 所 名 称 東京都千代田区丸の内二丁目 5 香 1 号 三 寝 重 工 袰 株 式 会 社

公 新 取 推

4. 代 型 人 tt. 所 .

東京都千代BI区为の内二丁目5番1号 三 夔 重 工 菜 株 式 会 社 内

名 弁写士 坂 間 晩(ほか1名)

5. 添付書類の目録

Æ

(1) 明細(2) 図

1 温

(2) 図 面 (3) 顯音副本

1 通 1 通

(4) 委任状

1 通

(5) 出顧審査請求額

47 052849

方式

(19) 日本国特許庁

公開特許公報

①特開昭 49-10109

43公開日 昭49.(1974) 1.29

②特願昭 47 52849

②出願日 昭沙.(1972) よ. 2 ク

審查請求

有

(全4頁)

庁内整理番号

50日本分類

7147 42 7147 42 7147 42 7147 42 10 J113 10 J111 10 A12 10 A13

1 発明の名称

ロータリャルンによるダスト処理方法

2 特許請求の範囲

3 発明の詳細な説明

近年の著しい製鉄所の生産性の増強に伴い発生する名種グストの量も増大し、従来廃棄されていた、これらダストを、高炉鉄入用原料に再

生利用する方法が注目されてきた。この方法と してもつとも昔及している方法がロータリキル ンによる還元焼成法である。

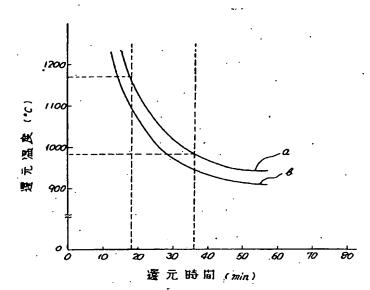
すなわち、ダストの主成分は酸化鉄であり、これに C. ZnO、 CaO、 SiO、 S 等を含んでいるが、混合ダストを通常の方法で強粒乾燥し、ロータリキルン内で1,000~1,200でに加熱競成することにより、C は酸化鉄を還元して金属鉄を生じ、ペレットの強度を向上すると共に、さらに重要な作用は ZnOを超元して Zn を揮発除去することにある。

とのように強度を向上されるとゝもに脱 2 n されたダスト焼成ペレットは高炉装入鉄原料として適した性状とされるのである。 すなわち、強度が大であるから高炉に装入されたのちも、削減により粉を発生して棚約りを生ずるような恐れもなく、さらに脱 2 n されているために、2 n にょる高炉接換上の不具合も生じない利点も生じるのである。

ところが、ダストペレットの特徴として原料

特別昭49-10109 (4)

6. 前記以外の発明者・代理人 (1) 鬼 明 者



(2) 代理人 住所 京京都千代田区文の內二丁目5番1号 三要宜工章性式会社内(第 212-3111) 氏名(8690) 弁別士 田 爲 一 鄭